

『ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢』大阪市立美術館

令和7年7月8日（火曜日）

参加：7名



Vincent Van Gogh(1853~1890)。最初は画商、その後聖職者を目指すも挫折して、27歳から画家になりました。その後37歳でこの世を去るまでの10年間で約800点の作品を残しました。生きている間は、世間から認められることはほとんどありませんでした。

認められなくても10年間で800点の作品を描き続けるその精神力は尋常ではないと想像できます。まさに狂気じみていないとできないのではないのでしょうか？その気迫が込められた筆使い、色使い、絵の具のタッチが観る人を魅了します。

物語はゴッホの死では終わりません。ゴッホが残した作品は、その弟のテオ、その妻ヨー、その息子（ゴッホの

甥）ウィレムによって次の時代に引き継がれ、世の中から認められていきます。そして、ゴッホの絵は世界的な人気となり、さらにオランダにファン・ゴッホ美術館が建てられるまでになりました。この美術館にはゴッホの作品だけではなく、ゴッホやテオが生前に集めた日本の浮世絵や、彼と同時代に活躍した印象派やポスト印象派の画家たちの作品も多数集められています。

今回の展示会はそのゴッホ美術館に収集されているゴッホ作品とその他ゴッホに影響を与えた作品群の展示されていました。やっぱり原画で観ないと感じない筆使い、色合い、気迫がありました



。次回9月は神戸市立博物館での「ゴッホ展」で引き続き他の作品を観れるのがさらに楽しみになりました。やっぱりゴッホは観とかないと！！

昼食は美術館近くの「菜乃庵」。築 100 年の歴史ある大正時代の邸宅を使った古民家和風居酒屋です。とっても素敵な場所でした。



展示会観賞後は美術館内のカフェで一息です。チーズケーキ美味しかったです。



とっても楽しい時間を過ごす事が出来ました。
ご参加頂いた方、ありがとうございました。

作成…風井